

壮大な事業のスタートを飾る

私がかねてより力を注いでいた事業に、文化財保護という仕事があります。これは、「自然破壊や人為的な脅威によって、危機にさらされている人類共通の貴重な財産である文化遺産、文化財を保存修理し、次の世代に手渡していこう」という目標のもとに取り組んできた事業で、私はこれを「文化財赤十字構想」と呼んでいます。

文化財保護というのは、単に文化財修復ということだけにとどまらず、歴史的遺産を後世に遺すという国際事業を現地の人々とともに行うことによる交流・協力促進を図ることでもあります。

また、そこには、より深い相互理解が生まれます。私は、日中韓の3国による文化共有のための協同事業によって、政治的行き詰まりも時間をかければ必ず解消されるものと確信しております。

遊技事業協同組合は、かねてより文化財保護事業に共感を示され、浄財を投じていただいたという関わりがありました。特にユネスコの文化事業を熱心に支援していただき、私の描いた「高句麗古墳今昔」を公開した兵庫県立美術館での「平山郁夫展」も開催していただきました。

また、私はマニラで文化財保護と平和の推進に関わる「マグサイサイ賞」を受賞しましたが、これも遊技事業関係者の方々の熱心なバックアップがあったがゆえにいただいたものにほかなりません。

昨年末に発足し、私が名誉会長をお引き受けした「全日本社会貢献団体機構」は、こうした関わり、信頼関係がもとになっています。本機構の発展のためいささかでも、お役に立ちたいと願っております。

本機構の創立記念助成事業に「日中韓文化交流フォーラム」を選んでいただきましたが、医療や福祉といった社会貢献のあり方の重要性を理解しつつも、一朝一夕に結果が見えるものでは決してない文化財保護に本機構が取り組んだ勇気を讃えたいと思います。文化財保護は、それぞれの国に文化の誇りを取り戻させ、人が交流し、理解を深めあうことです。それによって、やがて平和な社会をもたらすことに繋がっていくと私は確信しています。

こうした壮大で息の長い事業を社会貢献の一端として取り組み、支援を惜しまない本機構が発足から半年を経て、初めての報告書を発表するに至りました。

今後の長い道のりの一里塚ではありますが、本機構に関わる方々の熱い思いが、誌面から伝わることを願っております。



全日本社会貢献団体機構 名誉会長

平山 郁夫